

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：27102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21520589

研究課題名（和文） 日本人学習者のためのドイツ語の否定表現研究

研究課題名（英文） Negation in German for Japanese learners

研究代表者

平川 要（HIRAKAWA KANAME）

九州歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：90118092

研究成果の概要（和文）：日本語とドイツ語の否定に関する用法や表現の違いを明確にし、日本人学習者にとって分かりにくい事柄を整理し、ドイツ語の否定表現を体系化した。とくに **nicht** の位置および **nicht** と **kein** の違いを実際の会話例にそって整理した。**nicht** の位置については「否定の適用範囲」と「否定の焦点範囲」という概念を用いることによって、分かりやすい説明をすることができた。

研究成果の概要（英文）：We clarified the difference of the usage and the expression about negation in Japanese and German. And we systematized the expression for negation in German which is difficult to understand for Japanese learners. Especially, we specified the position of “nicht” and the difference between “nicht” and “kein” based on actual conversational examples. Concerning position of “nicht”, it is possible to explain plainly with the concept “Geltungs- und Focusbereich der Negation”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1500,000	450,000	1950,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：教授法・異文化コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

（1）我が国におけるドイツ語教授法は、ほとんど DaF（外国語としてのドイツ語）の研究を踏襲している。しかし DaF による学習は、ドイツ語と同じ語族に属する母語をもつ欧米の学習者を対象としており、日本人学習者の場合、発音、文法構造、表現のもととなる発想等すべてにわたって、学ぼうとするドイツ語と母語との違いが非常に大きい。

例えば冠詞はヨーロッパではどこの国の言葉にも備わっているのに対して、日本語の場合、そのような発想からしてそもそも存在しない。

（2）DaF で行われているような、冠詞等の存在を初めから前提とした教授法は、基本的には効果的であっても、なぜそのように表現されるのか説明を加えたほうが、学習者の会

話力を高める近道になることが多い。とくに日本人学習者にとって、ドイツ語の否定表現は、日本語のそれとは大きく異なり、文化や考え方の違いがその背景にある。したがって日本語的発想を意識させたドイツ語の異質さを理解させた上で、否定表現のもつ内容の奥深さを研究しなければならない。

(3) 研究代表者および研究分担者2名は長年大学でのドイツ語教育に携わり、社会人対象のドイツ語教育の経験があり、その経験を踏まえて2004年にはドイツ語の総合教材を出版した。その後も、その教材を用いた授業の成果を話し合い、よりよい教材作りを目指してきたが、その話し合いの中で、日本人学習者にとって分かりづらいドイツ語表現として否定表現を取り上げたことがあった。そのとき、ある程度分かっているつもりでいた私たち自身、否定表現のもつ内容の奥深さに驚き、その背景には文化や考え方の根本的な違いがあることに気付いたところである。

2. 研究の目的

(1) ドイツ語教育の現場では、学生が独作文した否定文について、**nicht** の位置は適切か、**kein** に置き換えるべきかについては日本語を母語とするドイツ語教師にはとっさに判断できない場合がある。本研究では具体的な説明によって、それらの意味やニュアンスの変化を説明可能にする。

(2) 本研究はドイツ語教育者が身につけておくべき必修の知識を研究するものであるが、初心者用の文法書を見ても否定について詳しく述べたものはほとんどなく、また否定表現の個々の局面についての語学的な研究はあっても、ドイツ語教師のための否定表現全般にわたる理論や説明はないのが現状であり、本研究はそうした欠陥を補うものである。

(3) ネイティブスピーカーの協力のもとに、ドイツ語の否定表現の全領域をくまなく探査し、多様な否定表現を成り立たせているその発想や論理について、日本人に納得のいく説明を構築していく。

(4) 日本人学習者にとってとりわけ分かりづらい **nicht** の位置について用法の違い、意味の違いを否定の適用範囲と焦点範囲という概念を用いて体系的な説明をする。

(5) 日本語とドイツ語の否定方法の違いから、それぞれを母語とする人の考え方が者の味方の違いを探り、文化比較をする。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者、研究分担者2名が、国内外のドイツ語表現研究書・文法書や比較言語学・文化の研究書を参考にして、それぞれ担当領域について持論をまとめ、ネイティブスピーカーを加えた月1回の研究会で問題点を洗い出す。それに基づいて各自、試案に修正を加え、さらに全体で検討を重ねる。

(2) これまでのドイツ語表現に関する研究は、もっぱら文献研究であり、収集される文例も過去の作家等の文章である。それに対して本研究では一見同じ意味をもつと思われる否定文をその語順や添えられた副詞等を少しずつ変えることによって、ドイツ語としての妥当性の限界、また意味やニュアンスの変化を、ネイティブスピーカーの協力を得て確かめる作業から生まれるものであり、日常語の活きた様態を扱っている点で根本的に異なる。

(3) ネイティブスピーカーの助けをかり、全員で様々なシチュエーションを設定して否定の会話文を作り、語順を変えるなどして意味やニュアンスの違いを検証する。こうした討論の内容をふまえてまとめ、全体的な統一見解を試みる。

4. 研究成果

(1) 日本語とドイツ語の否定表現の違い、とくに発想の差からくる用法の違いを明らかにした。

日本語とドイツ語の否定についての考え方の違いは次のことから生じる。

- ① 高文脈言語と低文脈言語の違い
- ② 待遇表現と中立的な表現
- ③ 情意性と論理性
- ④ 否定による主張と肯定による主張

否定表現を通じて日独両語の違いや特徴が端的に見られた。日本語：曖昧な表現が多い。発言内容自体よりも誰が発言したかとか、その場の雰囲気、状況の方が大切。同じ発言内容でも、その場の状況によって様々な意味になる。ドイツ語：明確に事故を主張。曖昧な表現は避ける。その場の条件や状況に応じた明確で厳密な表現が求められる。

(2) ドイツ語の否定表現の全領域をくまなく概観し、以下の項目の下、日常会話の文例を取り上げ、否定表現を分かりやすく体系化した。

- ① 否定の方法
- ② 全文否定と部分否定
- ③ 否定詞 **nicht** の位置について
- ④ 否定詞 **nicht** と **kein** の使い分け

- ⑤ その他の否定の用法
(nie, niemals, nichts,
否定句 noch nicht, noch kein, nicht
mehr, kein mehr, nicht einmal, weder...
noch, nicht sowohl... als vielmehr,
接頭語と接尾語による否定、
動詞による否定、
接続詞、前置詞による否定、
接続法Ⅱ式を用いた否定)
- ⑥ 否定を意味する反語、修辭疑問
- ⑦ 二重否定(歴史的な使い方、および現代
の使い方について)
- ⑧ 準否定語
- ⑨ 否定疑問に対する受け答え方
- ⑩ nicht を用いた注意すべき言い方
とくにその際、日本人学習者に分かりにくい
nicht の位置、および nicht と kein の違いに
ついては特別に多くの例文を出し合って考
察した。

(3) nicht の位置について

従来の文法書に見られる文否定と部分否定
との区別はその境界が曖昧であることから、
否定の適用範囲と焦点範囲という概念
(Duden, Die Grammatik による)を用いて
nicht の位置を検証した。

- ① nicht を前置する副詞類について
文否定と部分否定のうち、部分否定では
否定される語句や分枝は、否定の焦点範
囲と一致し、nicht はそれらの左側に置
かれる。しかし意味的に部分否定しかあ
り得ない副詞類の場合はどうか。否定の
焦点範囲の概念を用いて検証した。
- ② 否定枠からの除外について
文否定の基本として、nicht は定動詞と
ともに否定枠を作るといえるが、その例
外として目的語が修飾されて長くなる
と目的語が否定枠の右枠外にスツされ
る場バイがある。
- ③ 目的語に対する nicht の位置について
文否定の基本として、前置詞に伴われ
ない自立格目的語や自立格主語、およ
び代名詞の後に nicht を置くという規
則については、焦点範囲を述部とする
ことで、新しい説明に替えることができ
る。
- ④ 動詞の性質による nicht の前置について
nicht は、コプラ動詞を用いた述語文
の述語内容語、述語動詞の目的語、機
能動詞構文の目的語、方向を表す前置
詞句などのように、補足成分として動
詞に伴われる小楽不可能な、あるいは
特定の脈絡においてのみ省略可能な副
詞類に対しては前置しなければならない。
- ⑤ 文否定において nicht を後置する副
詞類について
この場合に当てはまるのは、話者の立
場と無関係な時間副詞、添加成分とし
て時

間を表す副詞、および話法詞である。

- ⑥ 文否定において nicht の前置、後置
ともに可能な副詞類について
述語文の述語内容語が副詞類の場合、
目的語が前置詞格の場合、添加成分
として時間を表す前置詞句、添加成
分として場所を表す副詞類、戦火成
分として因果関係を表す前置詞句の
場合を検証。

以上の検証から、部分否定と文否定を
前提としたこれまでの nicht の位置の
説明を、否定の適用範囲と焦点範囲
という概念で説明することのメリッ
トとして次の点が挙げられた。

- ・副詞類をめぐる nicht の位置につ
いては、文否定と部分否定の問題が
絡んで煩雑であるが、焦点範囲とい
う概念を用いることで説明が一義
的となり、また文否定と部分否定
の区別を持ち出す必要がなくなり、
初心者にも分かりやすい。
- ・ただし、その煩雑さにおいて従来
の説明法と変わらない点もある。
- ・長くなった目的語を否定枠から外
して文末に後置する場合と2格目的
語については、焦点範囲を用いた新
しい説明でも例外とみなさなければ
ならない。
- ・コプラ動詞や述語動詞など動詞
の性質に応じた対応する述語内容
語や目的語、前置詞句の前に nicht
をおく場合については、まず学習
者自身にこのような性質への理解
が求められ、焦点範囲で説明して
も難しいことには変わりはない。

(4) nicht と kein の違いについて

ドイツ語の否定表現は実に豊富で、
その表現の可能性も変化に富んでい
るために、日本人学習者がドイツ語
の否定表現を自由に使いこなすには、
かなりの練習とドイツ語の否定につ
いての考え方の理解を深める必要
がある。代表的な否定詞である kein
と nicht の両方による否定が可能な
ケースを次の6項目に分けて取り上
げ、kein と nicht の否定の特徴を
明らかにし、ドイツ語における否定
の発想の一端を明らかにした。確か
にドイツ語の否定表現は複雑である
が、kein と nicht の否定の特徴を
しっかり理解することができれば、
その複雑さもかなり単純化できる。

- ① 無冠詞名詞の否定
- ② 不定冠詞のついて名詞の否定
- ③ 職業を表す無冠詞名詞の否定
- ④ 数詞+無冠詞名詞の否定
- ⑤ 無冠詞名詞と動詞からなる熟語の
否定
- ⑥ 前置詞を伴った無冠詞名詞と動
詞からなる熟語の否定

以上の考察から次のような結論を得た。

- i) kein も nicht も「否定」の意味
特徴を持つということでは共通して
いるが、kein と nicht の両方
による否定が可能な場合には、

文意が異なる場合が多い。

ii) kein と nicht の両方による否定が可能な場合、kein は直後の名詞の意味内容を何らかの意味で消去し、nicht は潜在的に「訂正」の機能をゆうしている。

iii) また、kein によるひていは一般的・原則的なことに関わり、nicht による否定は当座のことに関わる傾向がある。

iv) kein が不定冠詞のついた名詞を否定する場合、kein は名詞全体を否定しつつも、不定冠詞に焦点を当てて否定する場合と名詞に焦点を当てて否定する場合がある。

v) kein が不定冠詞に焦点を当てて否定する場合

・不定冠詞によって示唆される数的な側面を否定する。

・不定冠詞によって示唆される性質的な側面を否定する。

vi) kein による否定にせよ、nicht による否定にせよ、否定される対象規模が大きくなると否定の焦点が不明確になりやすくなるため、アクセントなどの補助的手段が必要となる。

vii) kein と nicht を正しく使い分けるには、形式的なルールを理解するだけでなく、常に具体的な状況のなかで考える習慣を身につける。

(5) 最後に、本研究会で得られたドイツ語の否定用法を手掛かりに、ゲーテの『西東詩集』における否定表現の用法、意味、特徴を考察した。否定という視点から『西東詩集』が、見かけ上の東方趣味やロマン主義的傾向とは異なり、その核心においてはゲーテ晩年の思想世界にまさしく一致していることを確認した。すなわち自己否定を通じて、より根源的な自己実現が計られているのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

島浦一博、ドイツ語の否定詞 ; kein と nicht についての一考察、九州国際大学 (通巻第 49 号) 教養研究 第 17 卷 第 3 号、査読無、2011、47-62 ページ。

中島邦雄、ドイツ語の文中における否定詞 nicht の位置について、かいろす 49、査読有、2011、16-32 ページ。

[学会発表] (計 4件)

平川要、日本人学習者のためのドイツ語の否定表現研究 (1)、日本独文学会西日本支部第 61 回研究発表会、琉球大学、2009、12、5。

島浦一博、日本人学習者のためのドイツ語の否定表現研究 (2)、日本独文学会西日本支部 第 62 回研究発表会、ホテルニュータンダ、2010、12、4。

中島邦雄、ドイツ語の文中における否定詞 nicht の位置について、日本独文学会西日本支部 第 63 回研究発表会、熊本大学、2011、12、3。

平川要、ゲーテ『西東詩集』と否定、日本独文学会西日本支部 第 63 回研究発表会、熊本大学、2011、12、3。

[その他]

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平川 要 (HIRAKAWA KANAME)

九州歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：90118092

(2) 研究分担者

島浦 一博 (SHIMAURA KAZUHIRO)

九州国際大学・経済学部・教授

研究者番号：60196467

中島 邦雄 (NAKASHIMA KUNIO)

独立行政法人水産大学校・水産流通経営学

科・教授

研究者番号：00416455

(3) 連携研究者

()

研究者番号：